

研修で
学校が
変わる

授業づくり研修② まとめ

令和3年11月26日（金）



Web会議による遠隔研修（会場校方式）

「子どもが主体で学び合う授業づくり」

講師 高旗 浩志 氏（岡山大学 教授）

【研修のねらい】

■ 子どもが主体で学び合う魅力ある授業づくりをとおして気づいたことや変容について協議し、自校の授業改善の推進に生かす。

- 進度が遅れがちな子どもへの「まなざし」を変える。
- 学習規律の捉え方を変え、のびやかに学ばせる。

語彙の
習得

学習カウンセラーとしての教師

学ぶことに向けて子どもたち
を解放する授業づくりを！

子どもに必要な負荷を正しくかける
「学ぶ側」に立ち続ける
課題の吟味が重要

子どもにとっての学習の本質
「家庭学習」 = 「準備学習」

課題に対して自己内対話を紡ぎ、他
者の見方・考え方を採り入れること

「学ぶ」とは「わからない」
と言えるところから始まる。
人間関係の支えが必要

教師

教え切る授業

から

学び取らせる授業へ

学習指導案

⇒ 「実践研究計画」「研究仮説」

単元観：理想の着地点⇒「その単元・教材を通して身に付け
させたい力」「単元の系統性」を整理

子ども(児童)観：現実⇒「既習事項の定着状況」と

「その教科の学習に対する学級の課題」を記述

指導観：「学習上の課題（ギャップ）」を克服するための
具体的な指導方略

子ども

答えを見つける学習

から

自分の思いをつくる学習へ

～ 明日への想い（受講者の声）～

- ・ 分かったフリをさせない授業づくりという言葉が心に残った。分からない児童が、分からないと言える環境を作り、それによってクラス全体の学習も深まるよう考えていきたい。
- ・ 授業につながる家庭学習、準備学習の大切さを改めて感じた。予習してきたことが、授業の中で活かされ、深められるような授業をめざしたい。
- ・ 知識をそそぐよりも器を広げることを意識した授業改革が進んでいくように研究を進めたい。研究で共有すべきは特定のやり方ではなく考え方であることを意識したい。

- ・ 校内研究で共有すべきは「考え方」で、やり方には個性があってよい。学習意欲が低い子どもたちは語彙と自信が不足している、というのは実感している。言葉を紡ぐことができるよう、授業改善をしていきたい。
- ・ 「教室に支持的風土を」ということが心に残った。分からないことや考えていることが安心して伝え合える授業を目指していきたい。また、自分なりの言葉を紡ぐためには、授業の中で語彙を増やすことを意識していきたい。
- ・ 「課題に対して自分の思いを紡ぐ学習」へと転換できるように教室に支持的風土をしっかりと定着させ、学び取らせる授業へと転換していきたい。